

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）

分担研究報告書

東京都におけるICTを用いた肝疾患診療連携体制構築に向けての課題

研究分担者：芥田憲夫 虎の門病院肝臓内科 部長

研究要旨：虎の門病院は、12の医療機関とMINT System（IDリンクを活用）を用いた地域医療情報連携ネットワーク（地連NW）を構築している。今回、MINT Systemに加入している12医療機関を対象にICTの利用に関する意識調査を実施した。MINT Systemを含めた地連NWを用いた他の医療機関との診療連携は、67%の医療機関にとどまっていた。ICTの活用や、患者情報の共有や紹介がしやすくなるという利点がある一方で、1) ICTの内容が充分理解されていない、2) メリットがデメリットを超えていないと感じている、3) 作業の煩雑さとコスト面でのハードルといった欠点も挙げられた。これらの課題を踏まえて今後の研究を進めていく必要がある。

A. 研究目的

虎の門病院は東京都の拠点病院としてIDリンクシステム（Medical Information Network of Toranomon system； MINT system）により連携医療機関と診療情報共有を行っている。虎の門病院と連携医療機関を併診している患者を対象に、肝臓の採血検査や画像検査を中心に診療情報を共有することを目指す。初年度は、現状把握と問題点の抽出を行う。

B. 研究方法

虎の門病院は、12の医療機関とMINT Systemを用いた地域医療情報連携ネットワーク（地連NW）を構築している。これらの施設にICTを活用した診連NWに関する意識調査を行った。5つの質問が記載されたアンケート用紙を郵送し、同封の封筒で回答を返信して頂いた。

（倫理面への配慮）

本研究の実施にあたっては、個人情報保護に関する法律、法令および規範を遵守すると共に、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を遵守して実施している。

C. 研究結果

Q1. ICTという単語を知っていますか？

1. 詳しく理解し、説明できる (8%)
2. 知っているが、説明まではできない (75%)
3. 知らない (17%)

Q2. 将来的にICTを活用した診療連携ネットワークが実現した場合、メリットを感じる点は？（複数回答可）

1. 専門医にすぐ相談できる (6人)
2. 患者を紹介し易い (7人)
3. 患者情報が共有できる (9人)

Q3. 将来的にICTを活用した診療連携ネットワークが実現した場合、デメリットと感

じる点は？（複数回答可）

1. 費用がかかる（6人）
2. 手続きが煩雑（8人）
3. パソコン入力が煩雑（6人）
4. 個人情報漏洩（7人）
5. 患者情報が大きな病院に集中してしまう（0人）

Q4. 当院以外の施設と ICT を活用した診療連携を行っていますか？

1. 行っていない（33%）
2. 行っている（67%）
3. 行っている場合はご使用のシステム名（Human-Bridge、MINT）

Q5. 当院の MINT system に期待することは？（複数回答可）

1. 双方向性の情報閲覧（5人）
2. 予約可能なシステム（8人）
3. 病理結果の閲覧（6人）
4. 経時的なデータ閲覧（7人）

Q5. その他の意見は？

- ・他院の医師から状況のわからない予約を入れられたくない
- ・最新データの更新に時間がかかり、診察中に見られないことがある
- ・データ展開までの時間を速くして欲しい
- ・経時的なデータ閲覧ができず、他社よりも見辛い
- ・患者検索画面の操作がわかりにくい
- ・1度とった同意書をずっと見られるようにして欲しい
- ・シームレスに使用できると良い
- ・使いにくく、メリットがないので現在は使用していない
- ・煩雑であり中止している

D. 考察

MINT System を含めた地連 NW を用いた他の医療機関との診療連携は、患者情報の共有や紹介がしやすくなるという利点がある。一方で、1) ICT の内容が充分理解されていないこと、2) メリットがデメリットを超えていないと感じている、3) 作業の煩雑さとコスト面でのハードルといった欠点も挙げられた。更に、具体的に虎の門病院の MINT System に将来期待されている点として、診療の WEB 予約、経時的なデータの閲覧、病理結果の閲覧、双方向性の情報閲覧などが挙げられており、今後克服すべき課題といえる。

E. 結論

今回の調査で、虎の門病院を含む東京都における地連 NW を用いた他の医療機関との診療連携は十分とはいえない状況であることが確認された。患者情報の共有や紹介がしやすくなるという利点がある一方で、ICT への理解が未だ不十分であることや、作業の煩雑さとコスト面でのハードルといった欠点などが課題といえる。これらの課題を踏まえて今後の研究を進めていく必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Akuta N, Kawamura Y, Sezaki H, Nakamichi K, Saegusa E, Ogura H, Kato M, Doi E, Inoue N, Hosaka T, Saitoh S, Kobayashi M, Fujiyama S, Arase Y, Ikeda K, Suzuki Y, Kumada H, Suzuki F. Long-term

favorable efficacy of regular and repeated hospitalizations with a personalized diet and exercise treatment for steatotic liver disease. Intern Med 2025;64:47-54.

2) Akuta N, Kawamura Y, Fujiyama S, Nakamichi K, Saegusa E, Ogura H, Kato M, Doi E, Inoue N, Sezaki H, Hosaka T, Kobayashi M, Saitoh S, Arase Y, Ikeda K, Suzuki Y, Kumada H, Suzuki F. Impact of genetic polymorphism on personalized diet and exercise program for steatotic liver disease. Hepatol Res 2004;54:54-66.

2. 学会発表

- 1) 芥田憲夫、川村祐介、瀬崎ひとみ. 個別化医療を視野に入れた脂肪性肝疾患の食事運動療法. 第110回日本消化器病学会総会 シポジウム. 徳島. 2024.
- 2) 芥田憲夫. 心血管系イベントまで視野に入れた脂肪性肝疾患診療. 第60回日本肝臓学会総会 日本肝臓学会・日本動脈硬化学会ジョイントセッション. 熊本. 2024.
- 3) 寺本いづみ、芥田憲夫、森下裕美子、喜多島優子、樋口よしみ、鈴木義之. 肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業における多職種コーディネーターの活動と肝疾患相談センターの役割. 第60回日本肝臓学会総会 特別企画. 熊本. 2024.
- 4) 斎藤聰、芥田憲夫、鈴木文孝. 後期高齢者（75歳以上）における代謝性肝疾

患の実態と今後の展望. 第60回日本肝臓学会総会 パネルディスカッション. 熊本. 2024.

- 5) 川村祐介、芥田憲夫、池田健次. BCLC stage C HCC に対する Multidisciplinary approach の生存率延長へのインパクト. 第60回日本肝臓学会総会 ワークショップ. 熊本. 2024.
- 6) 斎藤聰、芥田憲夫、鈴木文孝. 各種肝腫瘍に対する定量的診断としてのMRIを用いたperfusion study. 第60回日本肝臓学会総会 ワークショップ. 熊本. 2024.
- 7) 芥田憲夫. 脂肪性肝疾患（SLD）の新規分類・年齢・性別から見た肝発癌率. 第26回日本高齢消化器病学会総会 合同シンポジウム. 川越. 2024.
- 8) Akuta N. Epidemiology and treatment of MASLD in Japanese real-world setting. 第28回日本肝臓学会大会 Strategic International Session. 神戸. 2024.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
無し
2. 実用新案登録
無し
3. その他
無し